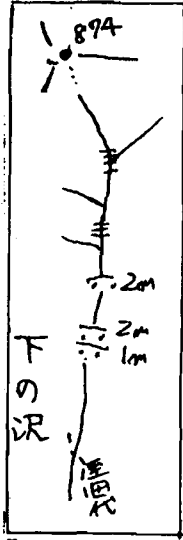


下の沢 1991年8月24日

L2



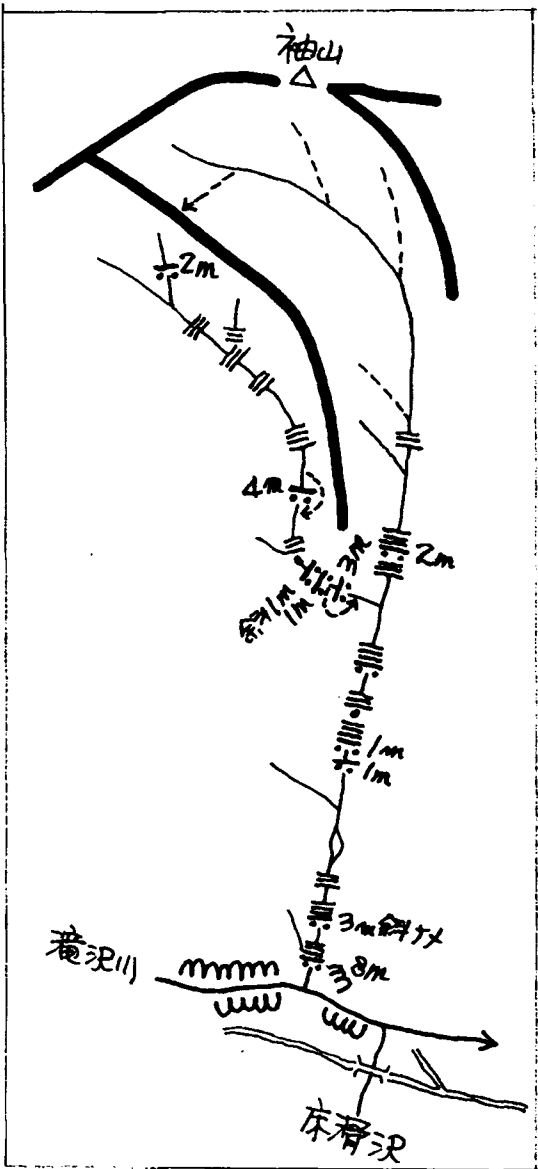
稜線上で小休止して、12時25分下降開始。10分もしないうちに細いミソ状の流れとなった。さらに20分程下ると、左から支沢が合流してようやく沢らしい流れとなる。水量は徐々に増えてゆくが、沢はずっと平凡なまま。ようやく出てきた滝も、1~2mの小さなものが3個だけであった。

下降を始めてから1時間半。田代集落から延びてきている踏跡に出会う。ここで下降終了とする。

登ってきた柴倉沢とは対照的に、平凡なままに終始した下の沢であった。

(目)

【タイム】 下降開始(12:25)→下降終了(13:50)→田代集落(14:30)→西部橋(15:20)



袖沢右俣

1991年8月25日

L1

床滑沢手前のテン場を6時20分出發。袖沢出合には10分程で着く。袖沢には、出合からすぐの所に8mの滝がかかっている。しかし私達は、ここまでの間に床滑沢の出合が確認できておらず、袖沢出合だという確信がもてず、もう一度テン場まで戻って床滑沢の出合を確認してから袖沢に入ることにした。床滑沢は、上

部で取水するため、水量が極端に少なく、川原の草地の間から、50cm程の幅で滝沢川に合流していた。床滑沢の出合を確認していたため、40分のロスとなってしまった。

7:15、袖沢の遡行を開始する。出合からすぐの8m滝は、右岸のブッシュを利用して小さく捲く。滝の上部には小沢が入っていた。沢はこの滝を越えると左俣の分岐まではナメ状の滝が2カ所出てくるだけで、さして変化もない平凡な状態が続く。

左俣出合には7:50到着。水量比は1:1で、ここから先は水量がぐっと少なくなってしまった。途中からヤブがかぶさり、源頭の様相をみせてくる。袖山の斜面を右手にみて左にカーブするあたりから沢は平坦となり、回りの樹木が高くなってヤブはなくなり、歩きやすくなる。8:40、稜線が見え始めた所で遡行を打ち切り、右岸をたいしたヤブこぎもないまま5分程登って、尾根に出る。

(記)

[タイム] 袖沢出合(7:15)→左俣出合(7:50)→遡行終了(8:40)→尾根(8:45)

袖沢左俣 1991年8月25日 L

袖沢右俣を遡行終了後、左俣の下降にかかる。ヤブこぎもなく、尾根からすぐに支沢に降り立つ。支沢を5分程下降すると2mの小滝があり、それを越えるとじきに本流に出合う。

下降を続けると、ナメが断続するようになる。右俣と違って、沢にヤブがかぶさらないので、歩きやすい。途中4mと3mの滝が出てくるが、いずれも難なく下降できる。下降開始から40分で、右俣との出合に着く。軽い食事をして、滝沢川との出合いまで戻る。最後の8m滝では、トレーニングを兼ねて懸垂下降の練習をした。

(記・)

[タイム] 尾根(9:00)→袖沢右俣(9:05)→左俣出合(9:40, 9:50)→滝沢川出合(10:30)